

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 愛知学院大学データサイエンス教育プログラム委員会

(責任者名)	青木 均
(役職名)	データサイエンス教育プログラム委員会 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学では、学部によって本プログラムに対して必修科目だけで構成している学部（総合政策学部、歯学部、薬学部）と選択科目で構成している学部（商学部、文学部、経営学部、法学部、心身科学部、健康科学部、心理学部）、あるいは選択科目と必修科目を組み合わせで構成している学部（経済学部）がある。必修科目と選択科目で構成している学部と選択科目のみで構成している学部については、本プログラムの履修・修得状況を教務課が収集し、各学部の科目担当教員と情報を共有している。修得した学生数については、2025年度の各学部修了者数は未確定であるものの、必修科目のみで構成している学部では多くの修了者が見込めるほか、経営学部でも増加傾向にある。また、修了者数が少ない学部では本プログラムの周知などが課題として挙げられている。</p>
学修成果	<p>商学部・経営学部・薬学部・心理学部・総合政策学部の各学部では、試験・課題等の成果・成績の経年的な比較や単位修得状況および講義担当者からのフィードバックをもとに学生の理解度や学修成果を把握している。経済学部・法学部・心理学部・薬学部においても、教務課より提供された成績、授業アンケートデータおよび個別学生との面談機会のある学部では直接の面談結果により、学生の理解度や学修成果を把握している。その結果は、データサイエンス教育プログラム委員会へ報告・共有されており、次年度以降への改善に向けた検討材料となっている。各学部とも学修成果などを踏まえて内容の見直しが行われており、例えば商学部では専任教員がプログラム構成科目に直接かかわる形に変更され、薬学部ではカリキュラム改訂によって、より体系的で実践的な科目構成・内容へと改善されている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>本プログラムにおける該当科目の終了後に行われる授業評価アンケートおよびデータサイエンス教育プログラム修了者アンケートを分析することによって、学生の内容の理解度を分析し、内容の理解度を把握することに取り組んでいる。</p> <p>2025年度は修了者60名から回答を得て、理解度を問う全ての項目について90%以上の学生が「理解できた」と回答しており、全体として概ね良好な結果が得られた。</p> <p>一方で、十分な理解に至らなかった学生も一部の学部で確認された。これらの結果から、本プログラムの学習内容は概ね適切に理解されていると評価できるが、一部の内容については、学生の理解をより確実なものとするため、授業内容や学習支援のあり方について引き続き検討していく必要がある。</p>

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムでは、修了者を対象としたアンケートにおいて、「後輩や同級生等他の学生へプログラムの受講あるいは修了申請を勧めたいと思うか」という設問を設け、他の学生への推奨度を把握している。2025年度のアンケート結果では、肯定的な回答が多く、本教育プログラムに対する学生の評価は全体として概ね良好であることが確認された。</p> <p>一方で、一部にはやや否定的または中立的な回答も見られた。特に、「どちらとも言えない」とする回答が一定数見られたことは、学生が本教育プログラムの意義や学修成果を他者に勧めるほどには十分実感できていない可能性を示唆している。</p> <p>このため、今後はアンケート結果の定量的な分析に加え、自由記述等も参照しながら、その背景や要因を検討し、本教育プログラムの内容や周知方法の改善につなげていく方針である。あわせて、肯定的な評価結果については、ガイダンスやオリエンテーション等において活用し、未受講の学生への履修促進に役立てていく予定である。</p>	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>履修者数増加のために、各学部において様々な対策がされている。例えば、総合政策学部、歯学部、薬学部ではプログラムをすべて必修科目で構成している。また、経営学部、経済学部、心理学部ではホームページやガイダンス、履修相談会等でのプログラム周知をしているほか、文学部ではアンケートの結果から学生間での修了申請の推奨が期待される。また、商学部ではプログラム修了の難しさを軽減するために、カリキュラム改正の際に対応科目や授業内容を大きく変更しているため、今後の修了者数の増加が期待できる。</p>	
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>多くの学部において、2025年2月末時点では本教育プログラムの修了者数がまだ少なく、修了者の進路、活躍状況及び企業等の評価について、本教育プログラム単独の成果として十分に把握・分析できる段階には至っていない。</p> <p>また、修了者の進路先や卒業後の状況を継続的に把握するための体制や手法についても、現時点では十分に整備されていない。</p> <p>このため、今後は修了者数の増加を踏まえつつ、キャリアセンター等の学内関係部署との連携や一部学部において先行的に実施している卒業生アンケート、就職先企業等への意見聴取などの方法を参考にしながら、修了者の進路、活躍状況及び企業等の評価を継続的に把握するための体制整備を進め、その結果を本教育プログラムの改善に活用していく。</p>	
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>産業界からの視点を含めた本教育プログラムの内容・手法等への意見については、現時点では全学的・体系的な把握には至っていないが、一部学部では、産業界に所属する講師からの意見聴取、産業界向けアンケート、企業等との意見交換を通じて、教育内容・手法に関する意見の収集を行っている。</p> <p>こうした意見の中には、本教育プログラムは、全学部を対象にデータ・AIの基礎素養を育成する点で有用であるとするものがあった。さらに、産業界の課題や実データを用いたPBL型教育、企業との連携授業を強化し、実社会で活用できる実践的なデータ活用能力の育成を推進することが望まれるとする意見もあった。今後は、これらの意見を継続的に収集し、本教育プログラムの改善に活用していく予定である。</p>	

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるために、各学部の専門領域と接続した取り組みとして、実社会・実務との接続、知的好奇心の喚起と成功体験の付与、継続的な学習支援と動機付けを行っている。具体的には以下の通りである。①実務・トレンドとの接続：実務経験者による事例紹介や最新トレンド（AI活用等）を交え、社会的な意義と好奇心を喚起する。②学生ニーズの反映：アンケート等を活用して関心の高いトピックを選定し、学びの動機付けを高める。③体系的な理解と周知：将来のキャリアや学びに繋がるカリキュラムの全体像を明示する。④実践的な指導とフォロー：ハンズオン形式で達成感を促すとともに、きめ細かなフォローで全員の課題完遂を目指す。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>教育の質を保証しつつ、学生の理解度を高めるために、各学部や講義の特色に応じて改善サイクルおよび支援体制を構築し、フィードバックに基づく授業改善、理解を促す授業構成の工夫、リアルタイムな学習支援と環境整備を行っている。具体的には以下の通りである。①多角的なフィードバックと改善：学生アンケートや外部（企業・卒業生）の意見を反映し、FD活動を通じて組織的に授業内容を改善する。②理解を深める実践的構成：身近な事例を用いた丁寧な解説や演習・ワークを行い、学生が着実にステップアップできる講義を構成する。③学習支援体制の充実：Teamsや学習支援室を活用し、疑問や問題を随時解消できる相談体制を整備する。④体系的な学びの連携：科目間のつながりを強化し、次ステップへの理解度をスムーズに引き上げる。</p>